

第2回土地利用関連計画策定懇談会 意見要旨

【「新しい都市づくりに向けて」の考え方に関する意見】

- 人口減少が進展していく中でも、「挑戦するミライ」として人口減少に抵抗していく考え方を示すことは良い。
- 人口減少に抵抗していくにあたり、高齢者の流入増加による若年層の流入低下が懸念される。高齢者の流入や若年層の定住のバランスをどのように取っていくかが、今後のまちづくりにおいて重要な視点である。

【緑の骨格構造の考え方に関する意見】

- 豊田市の未来像としては、都市の高密度化を図るエリアで緑化を確保するとともに、ゆとりあるエリアでは、その特性を生かし緑あふれる環境の中で活力を維持しながら、デジタル技術などを活用した先進的なまちづくりを目指すべきではないか。
- 緑の骨格構造図について、市街地の拡大を意図していないことや、市の緑が減るという印象をもたれないよう、緑の都市拠点以外でも緑の施策を展開していくことが伝わる、見せ方や記載表現をする必要がある。
- 緑の定義を明確にし、目的に基づいた具体的な役割として、生物多様性の維持、二酸化炭素の吸収、緑化による健康の増進、雨水の浸透率向上などを挙げると、緑の価値が伝わりやすくなる。

【誘導機能の考え方に関する意見】

- 主要な駅等の周辺への居住及び機能の集積を進める一方で、市街化調整区域内の大規模な既存集落に対する考え方について表現する必要がある。
- 高次都市機能・広域都市機能・生活機能の関係がわかりにくいため、都市構造の中でどのように位置付けられるのか整理が必要である。
- 都市計画マスタープラン、緑の基本計画、立地適正化計画で示す区域等の位置づけが、一貫してつながるよう、構成も含め整理が必要である。

【その他意見】

- 「これからの都市づくりの課題（回避すべきリスク）」のみの表現だと、これからの都市づくりが全体的に後ろ向きな印象を受けるため、「回避すべきリスク」だけでなく、「ポテンシャル」に関する整理も行い、「リスク」と「ポテンシャル」のように、前向きな課題として整理し両輪で示すと良い。
- 都市づくりの目標では、世界的な自動車産業の拠点である以上、都市の魅力を高め、風格のあるまちを目指すべきではないか。市の個性や都市の風格をどのように形成していくのか考える必要がある。
- 「デジタル技術の活用」というミライの都市に向けた考え方が、計画の中でどのように活用されているのかわかりやすい整理が必要である。
- デジタル技術は各政策分野で活用の可能性があり、テーマごとに意識的に取り入れることで政策の効果が高められる。